

## 第2回大阪府中央卸売市場運営取引業務協議会 市場あり方検討委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和3年2月8日（月） 10時00分～11時30分
- 2 場 所 大阪府中央卸売市場管理棟7階 大会議室
- 3 出席者 委 員：3名（小野委員長、多田委員、森委員）  
事務局等：大阪府中央卸売市場 6名  
株式会社流通研究所 3名（調査業務受託会社）
- 4 議 題 大阪府中央卸売市場の将来のあり方検討調査の調査報告書（案）について
- 5 議事内容  
**○大阪府中央卸売市場の将来のあり方検討調査の調査報告書（案）について**
  - ・事務局等から大阪府中央卸売市場の将来のあり方検討調査について、【資料1】【資料2】を用いて説明した。

### 《委員からの主な意見》

- ICT・IoTなどを活用し情報をオペレートすることで、ドライバーの待ち時間の削減やセリ価格の即時共有・発信など、市場においても有効な取組みはたくさんあるはず。将来を見据え、ソフト面の改革やそれに伴う基盤整備などについて今から検討すべき。
- 水産物の取引数量について、全国平均ではピーク時の約**35%**まで減少する中、府市場はピーク時の**27.5%**まで減少しており、減少幅が全国平均に比べ大きい。府市場特有の事情などがあるのかなどを検証し、建替える場合の施設規模の検討に活かして欲しい。
- 現在の物流業界では、流通過程における**CO2**の削減といった環境に対する取組みが活発になっている。国でもカーボンニュートラルなど環境政策を重点的に推進しており、これからの市場においてもこういった視点は重要。
- 機能強化の戦略としての「ハブ市場化」について、例えば、荷の東日本から西日本への中継機能や近隣他市場への転送機能などが考えられる。この意味するところについて、もう少し整理が必要ではないか。
- これからの市場において、必須となる機能に加え、他市場との差別化を図るためのプラスαの機能をどこまで整備するのか、今後、場内事業者等とも調整していく必要がある。